ひろば

私のひとこと

つれづれに思う

太田計枝（町原）

私たち交通指導員は、春・秋の全国交通安全運動をはじめ、夏の事故防止、年末年始の交通安全など、よく街頭に立ち、地域住民の皆さんと密着して交通安全運動に励みます。

しかし、安全運動期間中、テレビ・ラジオ・新聞等で報道されても、大部分の人が無関心のようです。街頭に立つ私たちの前を「もの好きなことを」というような、軽べつの目で見ながら通る人すらいます。

それでも私たち交通指導員は、そんなことを気にしていられません。手足が凍るほど寒い冬の朝でも、目がくらむように暑い夏の炎天下でも、子供たちがけがをしないよう、自転車や自動車が事故を起こさないよう、注意していなければなりません。

法令上は何の権限も持たない民間のボランティアですが、私たちが注意することによってあの悲惨な事故が防げるならば、と思って頑張っているのです。どうか皆さん、軽べつの目で私たちを見ないで、あたたかい「ご苦労さん」の一言をかけてください。私たち交通指導員は、その一言で、なお一層事故防止活動に励むことができるのです。

道路はあらゆる交通機関が利用できるものであるのに、今の社会では自動車が大部分を占めています。そして、人は常に車に脅かされています。

どんな物事にも「きまり」があるように、道路を利用するにも「きまり＝交通ルール」があります。すべての人が、交通道徳に対する自覚を持つようにいつも心がければ、交通事故は防げるのではないでしょうか。

横芝の碑 127

氏神として祭られた木戸台宿下の庚申様（上）

町文化財審議会委員 小沢春光さん寄稿

以前に「庚申様や道祖神の中には、名主や庄屋という、いわゆる村長（むらおさ）の屋敷内や門口等に祭られていたものもあるらしい」とお伝えしたことがありましたが、それと思われる庚申様が県道沿いの木戸台地先に建っています。

谷台から寺方に向かう県道が、俗に要害山と言われている城跡に沿って左右に大きく迂回すると、杉木立の森を構えた数軒の家が、物々しいといった感じで建ち並んでいます。ここは宿下（しゅくのした）と呼ばれる木戸台地区で、この集落の森の中に何気ない風情を見せて建っているのがその庚申様なのです。

邪鬼が印象的な庚申様

庚申様は、天蓋を戴き邪鬼を足下に踏まえ、その下に三猿が配されている青面金剛像が、主尊となって正面に刻まれています。他でもよく見かける図柄ですが、やや小造りに見えることと、図柄全体から見て、邪鬼の面相だけが妙にはっきりしているのが印象的です。両側面には、「明和甲申元年（一七六四）十一月、町原村宿下、権右衛門、団右衛門、喜兵衛、定右衛門、五左衛門、武左衛門、四郎兵衛」と、建立者らしい七人の名前が刻まれています。

実は、一度この庚申様についての取材を行おうとしたことがあったのです。私有地の杉林の中で小ぢんまりとして佗む姿や、刻まれている名前の連なり方等から、この庚申様は信者講中によって建てられたものではなく、個人的に祭られたものらしく思われました。

ちょうど、近くに町文化財審議会委員で、町原の乳銀杏の天然記念物指定にも尽力された伊東達雄さんがおられるので、この庚申様についてご指導を頂こうと考え、お訪ねしてみました。

伊東さんは「私の家にも関わりがある庚申様でして…」と、困ったようなご挨拶だけでしたので、無理にお願いしても申し訳ないと、取材を中止したのです。

伊東家一族の守護

ところが、最近になって「宿下の伊東家は、全部本家と分家の関係になっている。本家は伊東祐圀氏宅で、鎌倉時代に伊豆の伊東で栄えた伊東祐近の後えいであり、代々祐近にちなんだ名前の祐圀を名乗って今まで続いている。この宿下に移り住んだ初代祐圀の墓は、この近くに三十坪ほどの敷地を擁して建てられている。昔はその郎党であったという忠義な従士が、墓の近くに住居を構えて、主の冥福を祈り続けていた」という話を耳にしました。

やはり宿下の庚申様は、伊東家一族の守護のためにその先祖の方々が建てたものである。伊東達雄さんが困ったような挨拶をされたのは「本家のことを話すと自分の自慢らしくなる」という遠慮からであったのだ、と気づきましたので、改めて伊東さんのお宅を訪ねてみました。

●写真は氏神として祭られていたという木戸台の庚申様です。庚申様の前は本家の伊東家で、後ろには杉林続きに分家が建ち並んでいます。